



前略 いつもお世話になっております、今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収さいますようお願い申し上げます。

日経平均株価や大企業の賃金は上がっているのですが？

1.日本のGDPについて

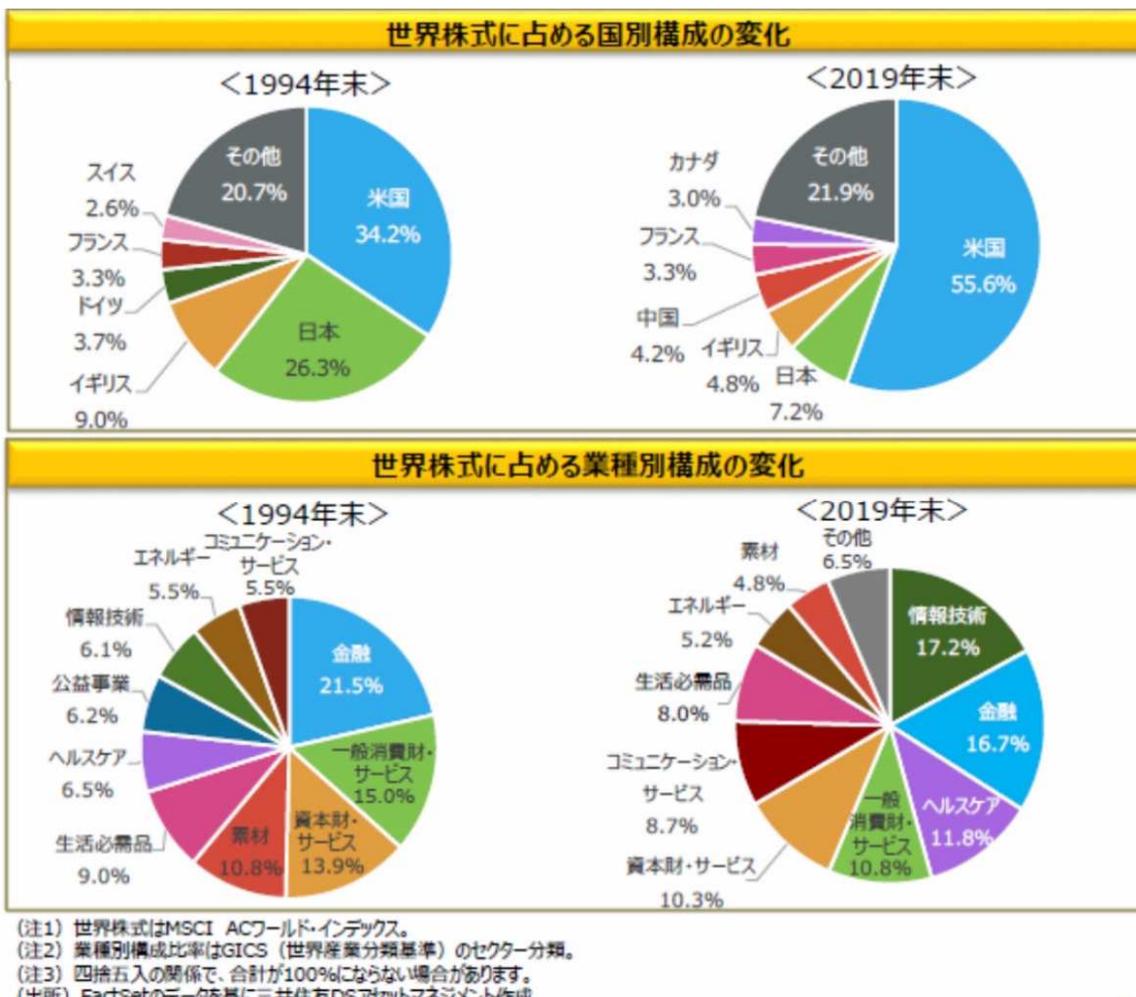
先日のマスコミの報道で、日本の去年1年間の名目のGDP = 国内総生産は、ドル換算でドイツに抜かれて世界4位に後退したと出ていました。長年にわたる低成長やデフレに加えて、外国為替相場で円安が進みドルに換算した際の規模が目減りしたことも影響したと言われています。また、去年10月から12月までのGDP = 国内総生産は、前の3か月と比べた実質の伸び率が年率換算でマイナス0.4%と2期連続でマイナスとなりました。(年換算は-0.08%の4乗のため大袈裟な数値になりますが)日本は出生率が低く毎年60万人もの人口が減少していますが、中でも生産年齢人口の減少はさらに大きくなっているため、この状況も仕方がありません。

2.日経平均株価の上昇

上記のように日本のGDP増加は、アメリカの次だったのが中国・ドイツに抜かれ世界に後れを取っています。しかしこの一年、日経平均株価は上昇を続けています。一部の日経寄与度の高い企業が無理やりに株価を吊り上げている印象があります。

1994年には、日本の上場企業の株価が世界に占める割合が26.3%もありました。

しかし25年後の2019年では僅か7.2%になってしまいました。



産業業種別の構成比の変化も大きく、この30年の間で「情報技術」はアメリカの独壇場となっています。

「半導体を含む素材産業」は台湾などにも負けています。

「医療機器・福祉用具・介護用品・医薬品・健康食品などの製造業などのヘルスケア」産業が増加していますが、医薬品もアメリカが強いですね。

今後、日本も新たな産業を開拓し、ついていかなければなりませんね。